

2012/08/10発行 ジャピオン掲載記事

文化会系編



「沖縄舞踊音楽会」は、沖縄芸能の伝承を目的としてスタート。初回のこの日は沖縄の唄と踊りと楽器演奏が行われ、観客とステージが一つになって盛り上がった。



順子フィッシャーさん

今夜のイベントはレクチャーではなく、皆さんに一緒に唄って踊って感じてもらいたいと願って企画しました。ステージと参加者の気持ちが一体になっているのを感じました。今後も沖縄の音楽やダンスなどを幅広く伝え、沖縄芸能の神髄をグローバルに広げていきたいです。ミュージシャンやダンサーのプロだけでなく、アマチュアの人たちもどんどん来てください。

沖縄舞踊音楽会「第一回唄やびら踊やびら会」

肝(チム)ドンドン! 唄と踊りで沖縄を知る

6月23日。沖縄戦が終結した沖縄慰霊日に、沖縄舞踊家で、能松会(のうしょうかい)琉球音楽舞踊研究所講師の順子フィッシャーさんが主催する「沖縄舞踊音楽会」の特別イベント「第一回唄やびら踊やびら会」が、クイーンズのアートギャラリー「レゾボックス」で開催された。

この日は沖縄から、民謡グループ「でいご娘」のひがけい子さんとコンポーザーの喜久川ひとしさんが参加。鮮やかな衣装に身を包んだフィッシャーさんの沖縄古典舞踊や雑(ぞう)踊り、三線民謡歌や「ひやみかち節」などの琉球民謡、ヒット曲「花」の創作舞踊、ひがさんの早撃ち即興太鼓演奏、喜久川さんによるアコーディオン演奏など、さまざまなジャンルの沖縄舞踊と音楽が披露された。参加者もスクリーン上の歌詞に合わせて唄ったり踊ったりし、「唄やびら踊やびら」(沖縄の方言で「唄いましょう踊りましょう」の意味)を体感した。

「2人の特別ゲストを招き、チームワークのいい素晴らしいステージになりました」とフィッシャーさん。島唄や三線を入れた曲を披露したひがさんは、「幅広い年代層に楽しんでもらえるようにさまざまな種類の曲を入れましたが、みんなノリがすごく良かったです。みんなも一緒にやってくれたので感動しました」。喜久川さんは、「慰霊日に演奏ができて良かったです。音楽を通してみんなの心を温かくできたかな」とほほ笑んでいた。

数年前に沖縄で戦争跡地巡りをしたという秋山祥子さんは、「まだ沖縄の戦争時のことにはこだわりがありますが、今夜は沖縄独特のメロディーや美しい衣装に魅了されました」と、立ち去るのが名残惜しそうだった。

フィッシャーさんの踊りのクラスを取っている小川実美さんは、「私は4分の1沖縄の血が入っているので、今夜は沖縄人の血が騒ぎました」と興奮気味。小川さんの夫でカメラマンのイーサン・スピグランドさんは「沖縄の文化や歴史に興味があるので、いつかドキュメンタリーを撮りたいです」と話していた。両手を揺らしてのっていたミロ・香介・神原さんは「知らない人同士でも、沖縄が好きという共通の気持ちだけで一緒に盛り上げられるのが沖縄パワーです」と大きな笑顔。

沖縄伝統芸能の普及活動に情熱を注ぐフィッシャーさんは、「みなさんと一緒に沖縄の「肝ドンドン」(ドキドキわくわく)を共有できて、ハートにびんびん伝わって来るものがありました」と感激していた。

参加者集まれ!

沖縄舞踊音楽会「第一回唄やびら踊やびら会」

毎週土曜日の午後3時30分～4時45分(音楽教室)と午後5時～6時15分(舞踊教室)、クイーンズポーク・プラザ駅近くのレゾボックス(41-26 27th St.)で開催。大人25ドル、学生20ドル。

■問い合わせ

junkofisher@verizon.net / info@resobox.com

www.resobox.com